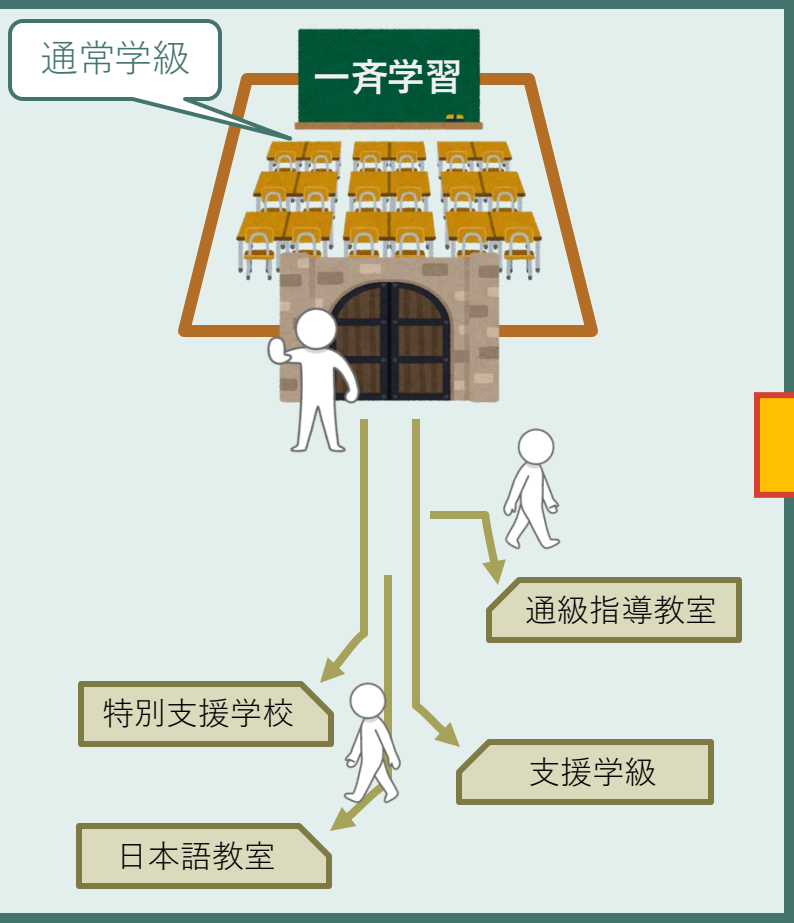
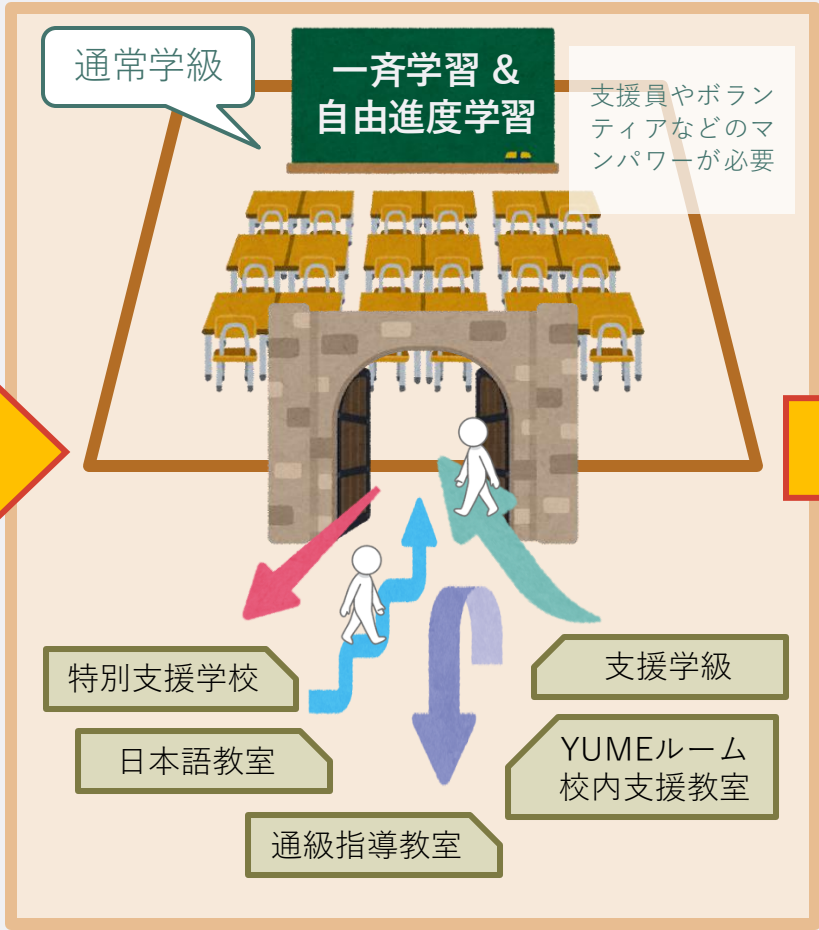


上陽小学校 インクルーシブ教育デザイン

理念の周知と研修



Segregation(分離)



Integration(統合)



Inclusion & Diversity
(包摂と多様性)

“スーツケースではなく風呂敷で”(大空小学校 木村泰子校長)

子供たちを堅い殻に入れて守ろうとするのではなく、カタチに合わせて優しく包み込む。
子供たちが学校（の前例や慣習に）に合わせるのではなく、学校が子供たちに合わせる。

ダイバーシティ & インクルージョン(DEI)宣言 (案)

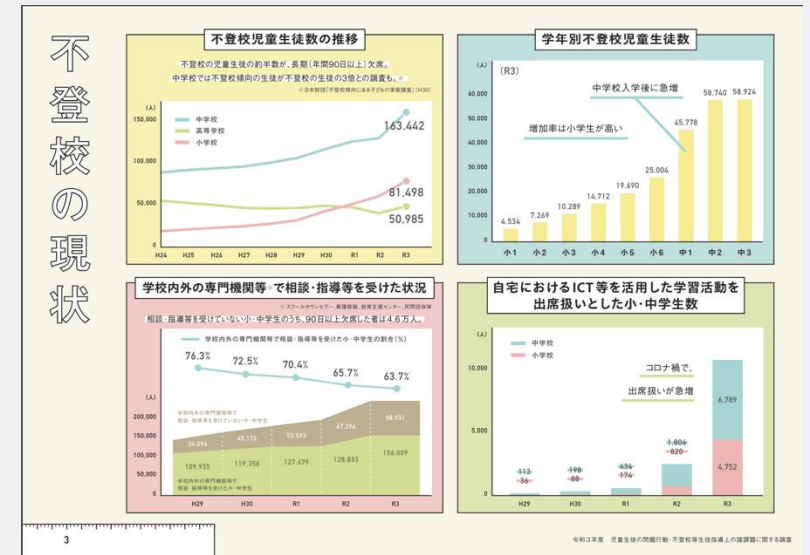
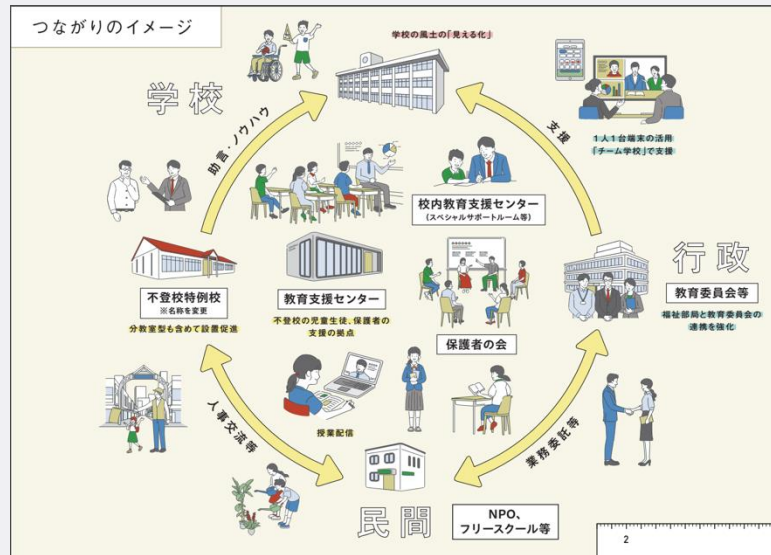
上陽小学校 ダイバーシティ & インクルージョン宣言 (案)
JOYO Elementary School Divercity, Equity & Incusion Policy.

- ・ Divercity の定義
- ・ Equity の定義
- ・ Inclusion の定義
- ・ 宣言の目的
- ・ 推進のビジョン …等

【てだて】 低・中・高学年ブロックチーム担任で児童を支援。多面的で多角的な視点（複数担任、教科担任、道徳専科）から児童のよさを見取る。教員の能力を最大限発揮（個別最適な学び、自由進度学習）

児童、保護者、教員、地域の方々を含む関係者のすべての方がエージェンシーを発揮し、Well-Beingであることを願い、ダイバーシティ&インクルージョンの定義、目的およびビジョンを宣言する。また、ポリシーの実現に向けた学校運営を行う。

校内支援室“YUMEルーム”の新設



目指す姿

1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、
学びたいと思った時に学べる環境を整えます。

2 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。

3 学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

これらの取組を実効性あるものにするために、

エビデンスに基づきケースに応じた対応を可能にするための調査の実施、
学校における働き方改革の推進、
文部科学大臣を本部長とする
「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」の設置を行います。

実効性を高める取組

1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、
学びたいと思った時に学べる環境を整えます。

01 不登校特例校の
設置を促進

02 校内教育支援センター
(スペシャルサポートルーム等)
の設置を促進

03 教育支援センター
の機能を強化

上陽小学校では
『YUMEルーム』と呼称する。

Your Unique Mind Expands
の頭文字をとったもの。
“あなたらしい心を広げよう”
の意味を持つ。

校内支援室“YUMEルーム”の新設

通常学級



YUMEルーム

「通常学級」「支援学級」「YUMEルーム」はいずれも学校にある子どもたちの“居場所”である。上下も区別も格差も必要無いフラットな関係。無自覚の差別（マイクロアグレッション）を解消していく必要性。

“YUMEルーム”研究と整備



- ・落ち着いた空間
- ・自分に合ったペースで学習・生活できる環境
- ・自分のクラスとつながる
- ・オンライン指導やテスト等（成績にも反映）

【一人一人の特性や能力、興味や関心に応じた柔軟な学習ができる環境】
(COCOLOプランより)

特化した空間設計やデザイン、費用負担に課題

→欧米がSchoolCalmingRoomの設置や研究が進んでおり参考にしたい

(研究・環境整備費用として各種助成金申請中)

・全員が週1コマ程度の担当

- 職員全員で“学校の居場所”を創る雰囲気醸成
- 心の小さなSOSを見逃さず「チーム学校」で支援

・SCやCSSの活用

- 専門的な知見から、整備と運用のアドバイス

・特配教員の活用

- 理解ある職員が、通常学級とYUMEルームの橋渡し
- 専門的に配置することで、児童の安心感

How to Create a School Calming Room
by Dr. Robert Dillon

A Calming Room Should Be Used for Emotional Regulation
The central purpose of a calming room should be to help students regulate their emotions. When stress and anxiety rise, all humans struggle to make excellent choices. We struggle in having productive conversations, and we lose focus on the tasks that lie in front of us.

The goal of your calming room should be to reduce negative sensory input and provide calming visual, auditory, and tactile experiences to help students destress. The room should be used to help students de-escalate and emotionally reset.



米国Demco, Inc より

<https://ideas.demco.com/blog/how-to-create-a-school-calming-room/> (一部抜粋)

全スタッフで参加する校内研修



カリキュラムコーディネータによる 視覚、触覚、聴覚、手と目の供応動作、言葉の可視化、感覚過敏



一社)メノキ様 (株) ジンズ様による研修 「みんなとつながる上毛かるた」

ブロックチーム担任制の導入開始

教師の得意を生かす

教員のキャリアや年齢によらず、指導や支援の学級間格差を均等化することができる。得意を生かし不得意を補い合う教員集団になる。

教員間コミュニケーション

児童理解や児童支援に関するコミュニケーションが活発に行われ、児童が安心して過ごせる環境をつくることができる。

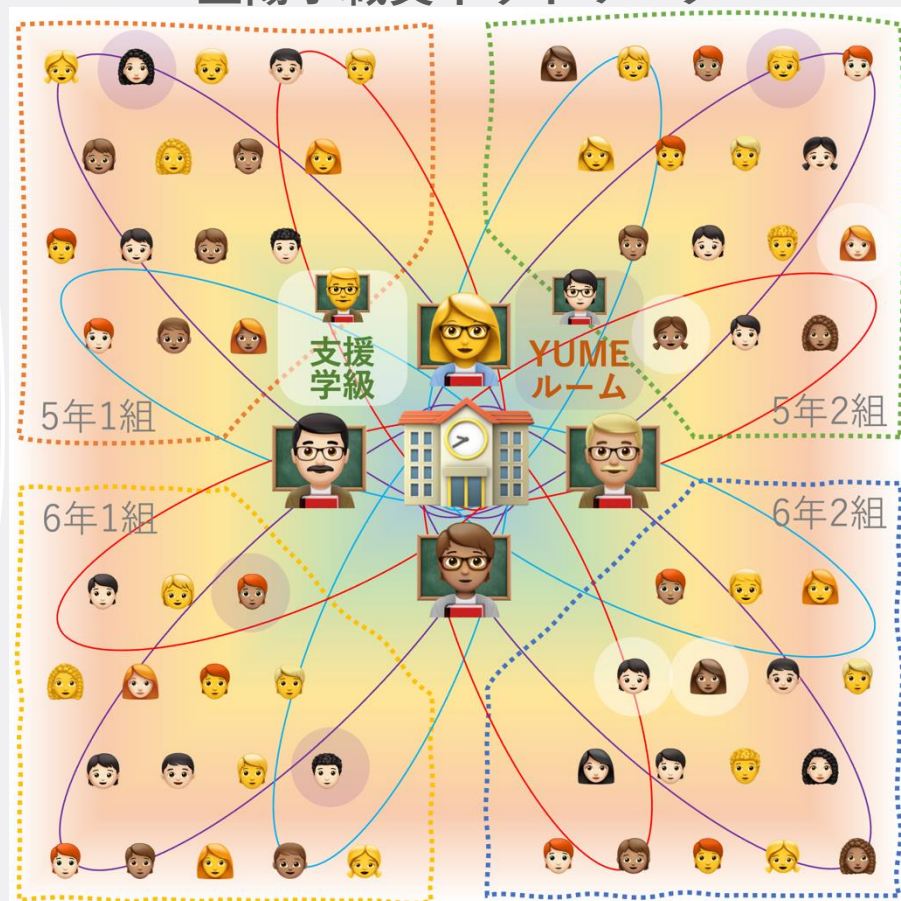
シームレスな組織

学年担当というシームレスな組織にすることで、多様な働き方に対応。限られた条件の中で最大限に能力が発揮できる。

教職員の不安解消

学級運営を任される不安や重圧が軽減され、教員一人一人のモチベーションを高めたり、能力を引き出したりすることができる。

ダイバーシティーな教育環境を創る 上陽小職員ネットワーク



多面的な見取り

複数の教員で多面的・多角的に児童のよさを見取り、よりきめ細やかな支援を行うことができる。

選択肢の広がり

児童や保護者にとって相談する際の教員の選択肢が広がり、状況に応じた最適な対応が可能になる。二者面談では教員を指名できる。

多様なニーズに対応

児童や保護者の多様なニーズに効果的に対応することで早期に問題解決ができる。ケース内容に最適な教員が対応できる。

クラスの枠を越えて

学校行事では、児童の主体性が今まで以上に求められるようになり、児童の「自立」を培う場として期待できる。

- ・ 従来の「学級」という“枠組み”は取り払われ、都度必要に応じてグループが作られたり、個であったりする。
- ・ 児童や保護者は選択の自由や包摂性の高さから安心感を得られる。他者の多様性に対する寛容度も高まる。
- ・ 教師の多様性が認められた職場で、得意を活かし、不安が解消され、高いパフォーマンスが発揮される。

未来に思いを馳せる校外学習（生活科）

体験と交流で“夢をつくる”

1,2年合同 公園探検 (第1学年)



初めてのグループ活動を通して、多様な他者と協働する意義を理解したり、行動の仕方を身に付ける。

1,2年合同 公園探検 (第2学年)

低学年のリーダーとして、集団の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり意志決定したりする力を育む。



1,2年合同校外学習



公園探検等の実践的な集団活動を通して、身に付けたことを生かして集団生活や人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現(夢)を図ろうとする態度を育てる。

未来に思いを馳せる校外学習（総合）

体験と交流で“**ここ**をつくる”

3,4年合同 みなかみGO！（第3学年）



自然×チームワーク＝上陽小の未来のリーダー

- ・SDG'sからWell-beingへ
- ・平素とは異なる環境でのたてわり活動
(R5,R6:谷川岳ハイキングとラフティング体験)

3,4年合同 みなかみGO！（第4学年）



自然×チームワーク＝上陽小の未来のリーダー

- ・ブロックリーダーの立場で主体的に役割を担い、その大切さを実感できる。
- ・「優しさ」や「強さ」から自分自身が憧れや頼りの存在であることに気づくことができる。

4年ぐんまWalker



- ・バスや保護者の車での移動(他者の力)ではなく、電車などの公共交通機関(自分の力)を利用した移動を経験し、高学年の校外学習につなげる。
- ・群馬の世界遺産(富岡製糸場)と群馬の未来(高崎駅)に行き、群馬の良さを再発見させる。

4年生 総合 みらいのケアを 考える「みらケア」



上陽小×企業＝SDG'sからWell-beingへ

- ・「やさしい心×アイデア＝未来のイノベーター」をコンセプトに『困った人を助けるみらいの道具をつくろう』というテーマを掲げ、自分たちのアイデアを地域の企業（「ケアコム」：多様なナースコールを開発し製品化する地元企業）とコラボレーションし、商品開発をするプロジェクト。児童自身が、社会に参画しているという自覚と自信を持つことができる。

未来に思いを馳せる校外学習（総合）

体験と交流で“未来をつくる”

5 年生 臨海学校



- ・ 集団宿泊体験を通して集団への所属感と連帯感、協調性や自立性が育まれる。
- ・ 自然環境（海）への知見を広め、自然や文化に親しむ心が育まれる。

5,6年合同 Tokyo Walker



- ・ 圧倒的な情報量と社会の変化に直接触れることで、個人と社会との関わりを体験し、**Well-beingの向上**について考えることができる。
- ・ 平素と異なる生活環境の中での異学年交流により、年長年少それぞれの立場で主体的に役割を担い、その大切さを実感できる。

5,6年合同 Tokyo Walker



- ・ 平素とは異なる環境でのたてわり活動（年長児としての振る舞いや責任感）
- ・ 先輩たちの姿を思い出し、5年生のお世話される側から、6年生の憧れを持たれる側へという役割の推移

6 年生 修学旅行



- ・ 事前,事後学習と併せて、日本の歴史的文化や芸術に対する問題解決的で探求的な学習を行うことで見えない学力（非認知能力）培う。
- ・ 教科学習で得た知識を、実地の見学等により具体化し発展
- ・ 自ら計画し実行することでの自主性と責任感

未来に思いを馳せる校外学習

体験と交流をインクルーシブに。

6年 修学旅行



- ・全行程において、車椅子利用の児童が他の児童と同様の班別行動に参加。
- ・訪日外国人旅行者との交流を通して、多文化共生社会への興味や理解の足掛かりに。

3,4年 合同校外学習



- ・通常学級と支援学級（知的,情緒）の分け隔てなく、ハイキングやラフティングに参加。
- ・車椅子利用の児童は、介護タクシーの利用のハイキングと木育クラフトにより、自然学習の目的やテーマの共有。

特別支援学校との共創と産学官連携

インクルーシブな学校運営モデル事業

令和6年度要求・要望額

1億円（新規）

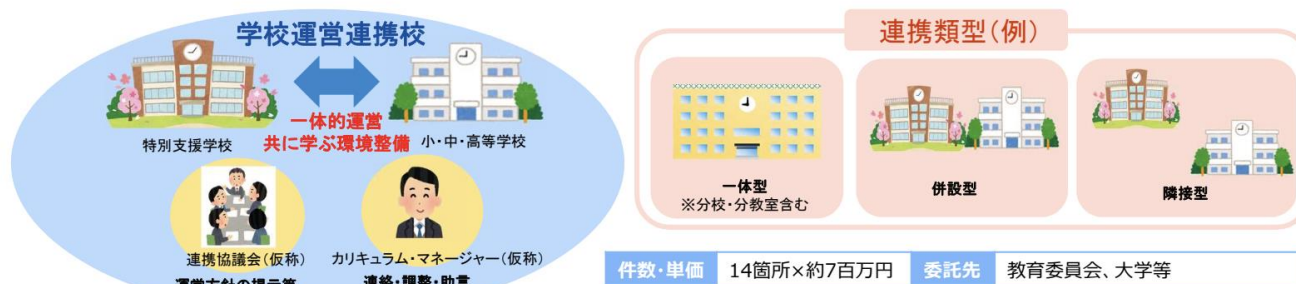


現状・課題

少子化により学齢期の児童生徒の数が減少する中、障害や特別支援教育に関する理解や認識の高まり等により、特別支援教育を必要とする児童生徒の数が増加している。そのような中、障害のある児童生徒やその保護者のニーズは更に多様化してきている。また、令和4年9月の障害者権利委員会の総括所見においても、よりインクルーシブな取組を求める勧告がなされている。このような状況を踏まえ、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で共に学ぶための環境の整備をはじめ、よりインクルーシブな社会の実現のため、関連施策等の一層の充実を図ることが求められている。【参考】骨太2023 第4章5（質の高い公教育の再生等）インクルーシブな学校運営モデルの構築など特別支援教育の充実等を図る。

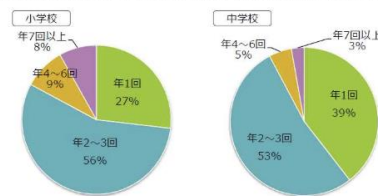
事業内容

障害のある児童生徒の学びの場の連続性を高めるため、特別支援学校と小・中・高等学校のいずれかを一体的に運営するインクルーシブな学校運営モデルを構築し、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が交流及び共同学習を発展的に進め、一緒に教育を受ける状況と、柔軟な教育課程及び指導体制の実現を目指し、実証的な研究を実施する。その際、異なる教育課程を踏まえた柔軟な教員配置も含めた校内体制等についても併せて研究を行う。



- ▶ 一体的に運営する特別支援学校と小学校等を「学校運営連携校（仮称）」に指定
 - ▶ 学校運営連携校に「連携協議会（仮称）」を設置（構成員：教育委員会、学校運営連携校の校長等、カリキュラム・マネージャー、外部専門家など）
 - ▶ 特別支援学校の教育課程と小学校等の教育課程をコーディネートするカリキュラム・マネージャー（仮称）の配置
- ▶ 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の研究
- ▶ 現行の教員配置に拘らない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方の検討 など

【特別支援学校と小・中学校との交流及び共同学習の実施状況】



（出典）障害のある児童生徒との交流及び共同学習等実施状況調査結果（H29）

担当：初等中等教育局特別支援教育課

ケアコム
CARECOM

玉村町と健康づくりや地域活性化を図るため、包括連携協定を締結。子どもたちのアイデアをもとに商品開発をするプロジェクトを実施。

tsukurun
GUNMA CREATIVE FACTORY

3DCGやVR、ゲームプログラミングなどを用いて次世代のデジタルクリエイティブに特化した“若年人材育成拠点”の出張講座を本校で開催し、デジタル技術の体験を行なった。

文部科学省「インクルーシブな学校運営モデル」として、玉村町立上陽小学校と県立伊勢崎特別支援学校で研究。STEAM教育の概念を取り入れ、社会的経済的に課題解決できる人材育成につなげたい。本校では当初Art(芸術・リベラルアーツ)を核に各教科に浸透し、産学官連携をさらに強化していきたい。

地域コミュニティへの波及

夢 × 未来 = 自立



協働的・共創的 エージェンシー



OECD/LearnigCompass2030『仲間や教師,保護者,地域社会との協働で共創的なエージェンシー』
PTAや保護者を通じて、ダイバーシティの理念はもちろん、協働と共創による社会発展を伝えたい。

自立分散型組織(DAO)への発展

教育支援センター の機能を強化

03

令和5年2月現在 単独で設置している市町村： 1147
他の自治体と共同設置している市町村： 126
設置していないが設置を検討している市町村： 134

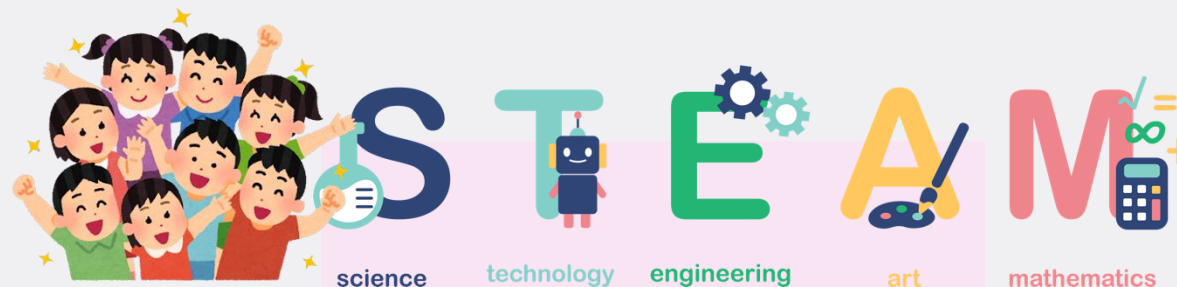
不登校の児童生徒への支援に加え、その保護者が必要とする情報を提供するとともに、子供たちが様々な学びの場や居場所につながるができるよう、地域の拠点としての教育支援センターに求められる機能や役割を明確化します。

民間のノウハウを取り入れた不登校の児童生徒への支援が行えるよう、業務委託や人事交流等を通して、NPOやフリースクール等との連携を強化します。

より広域の子供たちや保護者につながるよう、オンラインによる支援機能を強化するとともに、在籍校とつなぎ、オンライン指導やテスト等も受けられ、その結果が成績に反映されるようにします。

併せて、不登校の児童生徒への支援におけるメタバースの活用について、実践事例を踏まえた研究を行います。

文部科学省 COCOLOプラン



Web3.0

メタバース

NFT

DAO

夢 × 未来 = 自立

『不登校児童生徒への支援にメタバースを活用』

Web3時代を視野に入れ、STEAM教育で得た芸術や技術に“価値”を持たせ経済活動に繋げる。
群馬県にはイノベーション創出のための素地ができている。